

東芝



中国で最も権威ある「光明公益獎」を 4年連続受賞。

東芝グループは、中国共産党の機関紙「光明日報」が主催する、中国で最も権威ある CSR 賞「第4回光明公益獎」を受賞した。同獎は中国で活動するグローバル企業の中で、目覚ましい社会貢献活動を行った 20 社に贈られるもので、東芝グループは第一回から 4 回連続での受賞となった。東芝グループは「CSR 経営の遂行」を経営方針に掲げ、全世界で CSR 活動を展開している。中国でも 69 社のグループ企業全てが「CSR」を経営の柱に据え、積極的な社会貢献活動に取り組んでいる。

東芝中国社

希望小学校への支援。毎年 40 万元を寄贈し、2 校のペースで希望小学校を建設。2007 年度は、貴州省銅仁市漾頭鎮漾頭村小学校、四川省甘孜州海螺溝区磨西小学校の設立に参加。これまで 15 校の建設に参加した。また、2006 年には、農村・山間地区で義務教育に携わる優秀な教師 100 人の表彰に協賛した。

北京郊外での植樹活動。毎年 5 月 22 日を社会貢献の日と定め、2007 年は従業員と家族 78 名が参加し、180 本の松の木を植樹した。

東芝テック家電深圳社

教育機会提供の支援。食堂施設やコンピュータ



2007 年度光明公益賞を受賞する田中孝明東芝中国総代表

の購入費用として四川省西昌市の小学校に 10 万元を、校舎の維持と教材購入のため甘肅省榆中県の小学校へ 15 万元を寄付した。

東芝エレベータ瀋陽社

希望小学校の支援。教師用コンピュータ 6 台と、1 万元相当のバスケット、サッカー用品などを寄贈した。

東芝エレベータ上海社

3 月 15 日の「消費者の日」に、エレベータの緊急対応訓練を実施した。

東芝照明（福州）社

近隣小学校への寄贈。毎年、子供の日に従業員募金を実施し、今回は 146 名が協力して 2,122 元を集め、近隣の小学校へ体育用具を寄贈した。ハリソン東芝ライティング昆山社

会社周辺の清掃。地域環境保全の一環として、従業員が参加して清掃活動を実施した。

江西東芝電子材料社

希望小学校への支援。江西省于都県銀抗鎮洋徑に希望小学校を建設するため、机と椅子 490 セット、ファックス、教材、現金などを寄贈した。

東芝国際調達香港社

「ティーンエイジャーの自立支援の夏休み」を支援。貧困家庭のティーンエイジャー 20 名と海洋公園で夏の日を楽しむとともに、海の動物や環境を守る大切さを教え、学用品セットを寄贈した。



2007 年 6 月 東芝中国社 北京郊外での植樹活動

東レ

TORAY
Innovation by Chemistry

南通・上海の両研究所を強化。基盤素材・先端素材の研究領域と機能を拡大。

東レは中国での研究開発を強化するため、東麗繊維研究所（中国）有限公司（略称：TFRC、江蘇省南通市）に約1億2,000万元を投資し、繊維、樹脂など基盤事業分野での研究開発の強化と、電子情報材料分野・医薬分野での研究強化および機能拡大に乗り出した。

東レは2002年に外資企業では初めて繊維の研究開発研究所を創設。2004年には水処理の研究・開発拠点として、上海分公司研究所を設立。2005年には南通本社研究所に、重合製糸棟・高次加工棟を完成させるなど、研究の強化と施設の拡充に努めてきた。

今回の投資により、南通本社研究所では繊維の先端材料研究を推進するため、人工気象室などの新規評価設備を導入。上海分公司研究所では電子情報素材分野や医薬分野の強化をはかる研究棟を新築し、クリーンルームや医薬研究設備、有機合成装置などを導入した。

これら研究機能の拡大を機に、南通本社研究所では日本の研究開発部署との共同体制を強化し、グローバル市場への新製品投入を加速させていく。上海分公司研究所では中国の大学・研究機関・企業との連携を強化し、先進的な成果を生み出して新たな事業展開の基盤強化をはかる方針だ。



日本郵船

 **NYK LINE**

上海海事大学に「NYK カンファレンス・ホール」が完成。

海運関係者を多数輩出している上海海事大学に、昨年秋、新ホールが完成。「NYK カンファレンス・ホール」と命名された。同ホールは日本郵船が行った90万円の寄付をもとに建設されたもので、授業や講演会、学内外の各種イベントに使用される予定だ。

日本郵船は以前から上海海事大学に対し、奨学金制度やローン制度、特別講座を開講するなど、経済面・教育面での支援を行ってきた。また、船員候補者として採用した学生を対象に、2年半の講義と1年間の乗船訓練を行う「NYK 特別クラス」を設置。卒業1期生はすでに日本郵船グループの航海士、機関士として、コンテナ船や自動車運搬船などで活躍している。

「NYK カンファレンス・ホール」の除幕式には、日本郵船から萬治隆生専務、服部浩中国総代表、関根博経営委員が出席。「今後もハード面、ソフト面の支援により上海海事大学との関係を深め、学術向上、人材育成支援の協力をしていきたい」との萬治専務の祝辞に、会場から熱い拍手が沸き上がった。



左：上海海事大学於世成学長
右：日本郵船：萬治隆生専務

森ビル



米フォーチュン誌が森稔社長を2007年「アジア・ビジネスマン・オブ・ジ・イヤー」に選出。

毎年、アジアで活躍の際立った経営者を選出し表彰する、米フォーチュン誌の2007年「アジア・ビジネスマン・オブ・ジ・イヤー」に、森ビルの森稔代表取締役社長が選ばれた。受賞



森稔代表取締役社長

の主な理由は、「東京の六本木ヒルズや表参道ヒルズなど巨大プロジェクトを成功させた森氏は、都市生活の質を高める能力とビジョンを持ち合わせていること」、「多くの外国人投資家が敬遠していた中国・上海で金融センターの建設を決断し、アジア金融危機など多くの困難に直面しながらも強い信念をもって乗り越え、2008年春、発展著しい上海における国際金融センターの核として、「上海環球金融中心」プロジェクトが竣工を迎えること」などである。

今回の受賞に対し森社長は、次のようなコメントを発表した。

「私がこれまで東京・上海を中心に進めてきた街づくりのコンセプトが評価されたことを、率直にうれしく思います。土地の高度利用をはかり、建物を高層化すると共に地下も有効活用し、地上を人と自然に開放する“ヴァーティカル・ガーデンシティ”構想が、文化的にも時間的にも豊かで地球に優しく、ひいては経済発展の鍵となると一貫して主張してまいりましたが、それが新しい知識情報社会にふさわしいと国際的にも受け入れられつつあるように思います。この受賞を機に、アジアを代表する東京と上海が連携し、アジア経済圏の発展に寄与できればこれ以上の喜びはありません」

なお、同賞の発表はフォーチュン誌2008年1月21号の誌上で行われた。

キリンビバレッジ

「午後の紅茶 ミルクティー」が大ヒット。上海工場に2本目となる無菌充填ラインを増設。

キリングループの総合清涼飲料メーカー・キリンビバレッジが製造販売している「午後の紅茶 ミルクティー」が、中国で爆発的な売行きを記録している。昨年3月、中国では珍しい中性飲料用無菌充填のペットボトルでの販売を開始したところ、持ち運びに便利だと若者たちの間で評判になり、上海を中心に供給が追いつかないほどの売行きをみせている。



昨年3月、中国では珍しい中性飲料用無菌充填のペットボトルでの販売を開始したところ、持ち運びに便利だと若者たちの間で評判になり、上海を中心に供給が追いつかないほどの売行きをみせている。

乳成分を含むミルクティーは、従来の生産ラインでは高温殺菌の必要があり、熱で変形しやすいペットボトルには不向きだった。製造元の「麒麟飲料(上海)有限公司」では、常温で作業できる「無菌充填ライン」を導入。滅菌した製品液を滅菌した容器に無菌で充填・密封する「無菌充填ライン」の導入により、品質レベルの高いペットボトル商品の製造が可能になった。

キリンビバレッジでは好評に応じて、新会社「上海麒麟食品有限公司」に新たな製造設備を導入。2009年1月から稼働をめざしている。第1ラインと第2ラインを合わせて、年間1,000万ケースを超える規模の生産が可能になる。



アセプ無菌充填

ホンダ

広州ホンダ

4月の北京国際自動車組ショーで、
独自ブランドのコンセプトカーを発表。

広州ホンダは研究子会社の広州本田汽車研究開発有限公司を中心に、独自ブランドの新型四輪車を2010年までに開発する計画だが、今年4月に開催される北京国際自動車ショーで、待望のコンセプトカーが公開されることになった。

同社が開いた記者会見で大河原栄次総経理は、「コンセプトカーおよび車種、概要などを、北京国際自動車ショーで発表し商品化を急ぐ」と明言。同時にロゴマークやブランド戦略も公表する方針だ。

東風ホンダ

「シビック ハイブリッド」の輸入販売を開始。

東風ホンダは、昨年11月より、シビック ハイブリッドの輸入販売を開始した。シビック ハイブリッドは、主動力に1.3L 3ステージi-VTECエンジンを搭載。パワーと燃費の決め手となる吸排気バルブの開閉制御を、低回転・高回転・気筒休止の3段階で変化させることで、走行条件に最適なエンジン性能を引き出すことに成功している。これに組み合わせる補助動力には、出力性能を50%アップした新IMA（インテグレートッド・モーター・アシスト）を採用。1.3Lとは思えないレスポンスのよい走りと超低燃費を実現した。

シビック ハイブリッドの世界累計販売台数(2001年12月～2007年9月現在)は18万台を超え、世界的に高まる低燃費車へのニーズを背景に、堅調な販売が続いている。東風ホンダではシビック ハイブリッドの販売を機に、操業開始以来取り組んできた「環境に優しい事業活動」をさらに加速していく方針だ。



旭化成

AsahiKASEI
旭化成集団

北京コレクションに「旭化成中国大賞」を新設。
中国のトップデザイナーが斬新なデザインを発表。

1997年から毎年3月と11月の年2回北京で開催されてきた、中国国際ファッションウィーク（北京コレクション）が、昨年10周年を迎えた。記念すべき10周年に花を添えたのが、新設された「旭化成・中国ファッションデザイナークリエイティブ大賞（旭化成中国大賞）」である。

旭化成中国大賞は、中国のトップ10ファッションデザイナーの中から年間2人を選出。3月と11月のコレクション期間中に、受賞デザイナーが「ベンベルグ」を素材とした新作を発表するという中国では初めての試み。記念すべき第1回の旭化成大賞には、厳正な審査の結果、劉薇氏とゾウ ユウ氏が選出された。

「ベンベルグ(賓霸)」は、再生セルロース繊維キュプラのブランド名で、トップブランドの最高級裏地として、またインナーウェア、スポーツウェアなどに用いられ、世界シェアの9割以上を占めている。

11月に行われた授賞式では、劉薇氏に大賞のカップが授与され、劉薇氏デザインによる「2008春夏ベンベルグコレクション」が発表された。なお、ゾウ ユウ氏には2008年3月のコレクション期間中に大賞の授与と、ベンベルグコレクションの発表が行われる予定。



2008年10月1日から
「パナソニック株式会社」へ社名を変更。

松下電器産業は今年10月1日から社名を「パナソニック株式会社」に変更する。正式には、6月下旬開催予定の定時株主総会で定款変更の承認を得て決定される。

今年には松下電器産業の創業90周年に当たることから、社名とグローバルブランドを一本化し、グループ会社すべての活動を「Panasonic」に集約して、ブランド価値の強化をはかることとなった。

「中国環境貢献企業宣言」を発表。

パナソニックチャイナと松下電器産業は、昨年9月、「松下グループ・中国環境フォーラム2007」を開催し、「中国環境貢献企業宣言」を行った。松下電器産業は中国を最重要地域とし、事業活動と環境活動の強化をはかっている。「中国環境貢献企業宣言」は、進行中の「中国エコプロジェクト」における活動計画や目標を明示したもので、概要は次の通り。

- 1 高い環境性能を有する製品づくり
中国で発売する全新製品をグリーンプロダクツにするよう開発を進め、環境ラベルの取得をめざす。
- 2 製造事業場における環境負荷の低減
「第11次5カ年計画」の環境指標と2010年の達成目標を企業内指標に置き換え、2009年度中に目標レベルをすべて達成し、全製造事業場で公的環境認証を獲得する。
- 3 従業員の環境意識向上とエコ活動の展開
従業員による「エコ行動宣言」や、日中合同「CO2削減10万人エコチャレンジ!」の実施など、様々なエコ行動を実践する。

7年間にわたる「黄海エコリージョン支援プロジェクト」の支援を決定。

昨年9月、松下電器産業とパナソニックチャイナは、世界自然保護基金（WWF）、韓国海洋研究院（KORDI）との間で、「黄海エコリージョン支援プロジェクト」の共同宣言に調印した。

同プロジェクトは、黄海、渤海、東シナ海の一部を含めた約46万平方キロの海域を「黄海エコリージョン」とし、海洋生態系と沿岸に住む人々の豊かな未来をめざす。松下グループは、7年間にわたり資金的援助（約1億7,000万円）を行うほか、優先保全地区の保全・管理・啓蒙活動を支援する。

